

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第100号

2024年2月15日

<https://www.australianstudies.jp/index.html>

1. オーストラリア学会 2024 年度総会・全国研究大会 概要

新型コロナウイルス禍による影響もようやく収まり国際的学術研究が本格化するかと思われた矢先、ロシアによるウクライナ侵攻そしてイスラエルによるガザ侵攻と国際秩序を大きく揺るがす戦火が続くことになりました。こうした現状において、私たちは国際的研究を行う者として、国と国、地域と地域の境界の意味を再考することを求められています。2024 年度の全国大会の統一テーマは“**Borders and the Borderless**”（境界と境界を越えるもの）とし、日豪の文化的実践の実例をとりあげて、今日の文化において境界がもつ意味を考えます。

大会 1 日目の「シンポジウムⅠ：俳句とオーストラリア」では、日本を起源とする詩形・俳句をとりあげ、オーストラリアから俳人および俳句研究者をお招きし、開催地である「俳都」松山の俳人と意見を戦わせていただきます。ローカルな価値がグローバルな枠組みとどう関わり、どのように新しい文化的価値を生み出しているのかを作品とオーストラリアの俳句コミュニティの実践を軸に検討します。

大会 2 日目の「シンポジウムⅡ：コロナ禍で表出したボーダーとアイデンティティ」では、オーストラリアで活動するアーティスト・金森マユ氏の作品を中心に、境界とアイデンティティの問題について考察を行います。新型コロナウイルス禍に見舞われたオーストラリアの一地域をとりあげた金森氏の作品は、コロナ禍における国境閉鎖や移動制限が文化にどのように影響を及ぼしたのかを考える上での重要なヒントになるでしょう。シンポジウムと同時に金森氏による展覧会を開催し、松山の俳人とのコラボレーション作品も公開します。

日時：2024 年 6 月 15 日（土）・16 日（日）

会場：松山大学樋又キャンパス（〒790-0825 愛媛県松山市道後樋又 6-3）

会場アクセス：<https://www.matsuyama-u.ac.jp/guide/campus/access/>

会場責任者：湊圭史（松山大学）

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は会報次号にてお知らせいたします。

第 1 日目：6 月 15 日（土）

09:00-11:30 理事会

12:00 受付開始

12:30 開会セレモニー

13:00-13:40 特別講演（松山大学言語コミュニケーション学科共催）

講演者：ロドニー・スミス（東大 CPAS 客員教授、シドニー大学教授）

13:50-16:00 豪日交流基金（AJF）助成シンポジウムⅠ※同時通訳あり

‘Haiku and Australia—borderless, but placeless?’

（俳句とオーストラリア—境界を越える、でも場所は？）

司会：湊圭史（松山大学）

報告：ロブ・スコット（俳人、オーストラリア俳句協会会長）

グラント・コールドウェル（俳句研究者、メルボルン大学）

コメントータ：小西昭夫（俳人、俳句新聞「子規新報」編集長）

質疑応答・討論

第 2 日目：6 月 16 日（日）

09:00 受付開始

09:30-11:30 一般個別研究報告

11:30-12:30 昼食休憩

12:30-13:15 総会

13:00-15:30 豪日交流基金(AJF) 助成シンポジウム 2 ※同時通訳あり

‘Borders and Identities: Impacts of the Covid pandemic’

(コロナ禍で表出したボーダーとアイデンティティ)

司会：鎌田真弓(名古屋商科大学)

報告：金森マユ(アーティスト)

飯笹佐代子(青山学院大学)

濱野 健(北九州大学)・舟木伸介(福井県立大学)

コメンテーター：ロドニー・スミス(東大 CPAS 客員教授、シドニー大学)

他、調整中

質疑応答・討論

15:45 閉会挨拶

2. 第12期第4・5回理事会報告

【第4回理事会(臨時)】

日時：2023年10月13日(金) 20時～21時30分

場所：オンライン

出席者：阿部亮吾・飯笹佐代子・栗田梨津子・佐藤渉・塩原良和・杉田弘也・友永雄吾・

中澤加代・永野隆行・原田容子・湊圭史・村上雄一・安田純子・有満保江(監事) ※敬称略

第4回理事会が臨時に開催され、一般会員からの問い合わせに対する対応が協議された。

【第5回理事会】

日時：2023年12月10日(日) 15時～17時

場所：オンライン

出席者：青木麻衣子・阿部亮吾・飯笹佐代子・小野塚和人・栗田梨津子・佐藤渉・塩原良和・

杉田弘也・中澤加代・永野隆行・原田容子・舟木伸介・村上雄一・安田純子・有満保江(監事)・

濱嶋聡(監事) ※敬称略

1. 永野代表理事より、2024年度全国研究大会の進捗について報告があった。
2. 栗田理事より、学会誌の査読方法を改善することについて報告があった。
3. 各担当理事より、関西例会(11月18日)と関東例会(12月16日)の開催について報告があった。
4. 塩原理事より、地域研究学会連絡協議会(JCASA)への参画状況について報告があった。
5. 塩原理事より、新規入退会者が報告され、承認された。
6. 永野代表理事より、2023年度全国研究大会へのAJFからの助成金の残額の使用方法について提案があり、2024年2月23日に特別講演会を開催することが了承された。
7. 永野代表理事より、2025年度全国研究大会の開催校を慶應義塾大学とすることが提案され、了承された。
8. 栗田理事より、優秀論文賞選考委員会実施細則の一部改訂が提案され、了承された。
9. 塩原理事より、一般会員からの問い合わせに対する対応、持続可能な学会運営のためのアンケート調査の実施、次期(第13期)理事・監事の選出方法についての提案があり、いずれも了承された。

3. 第33回地域研究会(関西例会)報告

前川真裕子(関西例会担当理事)

第33回オーストラリア学会関西例会が2023年11月18日に京都駅前のキャンパスプラザ京都で行われた。第一発表者の阿部亮吾氏(愛知教育大学)の発表「シドニー大都市圏における日本人留学生の移動と空間」では、1990年代以降のシドニー大都市圏におけるアジアからの留学生が研究の対象とされた。特に、日本人留学生に焦点を当て、その居住形態やライフコースに合わせた都市内移動が、シドニー大都市圏の空間構造や都市再開発といかなる関係にあるのか分析が行われた。日本からの留学生を含めたアジア地域からの留学生たちは、教育産業に経済的利益をもたらすだけでなく、都市に住まい消費しかつ労働する「都市居住者」でもあることから、留学生の都市空間内における移動については今後のオーストラリアにおいて重要な研究対象になることが予想される。第二発表者の濱嶋聡氏(名古屋外国語大学)の発表「クイーンズランド州ヨーク岬及びケアンズ北部の先住民言語復活・維持」では、先住民言語の復興・維持を担う人々が、それぞれの教育現場でどのような取り組みを行ってきたのかの考察がなされた。フィールド調査は、オーストラリア最北端のヨーク岬に位置する

5つのコミュニティ（アボリジニーズ、トレス海峡諸島民）のうちの一つ、Bamaga（バマガ）コミュニティ内アボリジニーズ家族宅に滞在しての情報収集、ケアンズ、Pama（パマ）言語センター内の長年の研究協力者で、教育者で言語学者でもあるスタッフを訪問してのIT言語教材資料収集をもとに行われている。各言語の復興・維持には、学校で授業を行うことのみならず、「ウォークアウト」や「葬儀の儀礼」といったアボリジニーズおよびトレス海峡諸島民の慣習を十分に理解した上で、教育方針がたてられなければならないことが紹介された。（参加者 16名）

4. 第17回地域研究会（関東例会）報告

原田容子（関東例会担当理事）

今回の関東例会は、昨年12月16日（土）、東京大学駒場キャンパスにて予定通り開催された。講師には、前回の関東例会の講師ニコル・ムーア教授の後任として、東京大学アメリカ太平洋地域研究センター（CPAS）のオーストラリアン・スタディーズ客員教授に、9月に着任されたばかりのロドニー・スミス教授にご登壇いただいた。演題は「The Voice Referendum, Equality and Australian National Identity」。昨年オーストラリアにとって最も重要な事案であった先住民に関わる国民投票The Voice Referendumがトピックで、またその結果が出てから日が浅かったこともあり、年末も押し詰まった時期の開催ではあったが、学会会員に加え、複数の非会員の参加も得て盛会となった。

スミス教授の講演のキーワードは「平等（equality）」。「平等」というのは誰と誰の間の「平等」なのか、何をもってして「平等」と言うのか、その解釈には複雑性があることを浮き彫りにしたのが今回のThe Voice Referendumだった、と指摘された。特に、The Voice が通ることによって健康、教育、雇用の分野で、先住民と非先住民の間の平等を達成することが本当に可能なのか。そもそも今回の国民投票の提案に含まれている価値観が、先住民の人たちの中で等しく共有されているのか。また、重きを置かれるべきは先住民と非先住民の人たちの間の平等なのか、それともオーストラリア人一人一人の間の平等なのか。主にこの三点について意見が割れ、今回の結果となった、との分析だった。

質疑応答の時間は、参加者の中には日本在住のオーストラリア人研究者、つまり実際に今回の国民投票に在外投票をした人も数人いたことから、スミス教授との対話のような形となり大いに盛り上がった。当学会会員からは今回の国民投票の結果が現アルバニー政権に与えるダメージはあるか、オーストラリアの外交に与える影響はあるだろうか、もしまだ賛成の声が強かった頃に投票の時期を早めていたら結果は違っていただろうか、などの質問が積極的に出された。

スミス教授が述べていたように、オーストラリアは紛れもなく植民地主義に根差した国で、1788年の入植以来ずっと先住民と入植者（非先住民）の間の力関係の不平等が存在している。その不平等を是正するのが今回の国民投票、という理解を私はしていたが、事はより複雑で、今回の国民投票は失敗に終わった。では、その根本的な不平等は一体いつ、どういう形で解消されるのか。先住民の人たちはもちろん、非先住民の人たちもあの土地を出ていくことはない、という講演の中でも言及された現実を考えると、オーストラリアにとって、それは永遠の課題であり続けるのだろうか、と思わざるを得なかった。

5. 豪日交流基金助成 特別講演会のご案内

このたび、オーストラリア学会では以下のような特別講演会を開催いたします。会員・非会員問わず参加できます。またオンライン参加も可能です。年度末の忙しい時期ではありますが、ぜひふるってご参加ください。

日時：2024年2月23日（金・祝）14時15分～16時50分

会場：東京都 新宿区 市谷田町 2-17 八重洲市谷ビル 8階 Room 8C

※オンラインでの参加も可能です

参加費：無料

※通訳なし

※オーストラリア学会会員以外も参加できます

講師：

1. Tianna Killoran 氏 (James Cook University)

"Movements and Migrations: Japanese Women in Northern Australia during the White Australia era"

2. 村上 雄一氏 (福島大学)

「タウンズビル地域と日本：Y. Tashima と Japanese House を中心に」

※詳細は本学会フェイスブックをご参照ください。

<https://www.facebook.com/australianstudiesassociation.jp/>

参加申込：下記フォームよりお申込みください（2月21日締切）

<https://forms.gle/4YXJRHMv9x4EvvuJ8>

お問い合わせ先：塩原良和（オーストラリア学会理事） shiobara@keio.jp

※講演会当日のお問い合わせには対応できない場合があります。

6. 終身会員制度について

会員として長年にわたり本会の発展に多大な貢献をしたことへの感謝と、学会活動への参加継続を目的に、終身会員制度を導入することが、2021年度全国研究大会に併せて開催された総会にて承認されました。

なお終身会員は呼称であって、会員種別ではありませんのでご注意ください。2022年度分の会費から対象となります。

【対象者】

会員のうち、次の(1)、(2)いずれにも該当し、本人からの申し出があった方を対象とします。

- (1) 一般会員（院生を除く）で、10年以上の会員歴を有し、当該年度から遡って10年間において会費を完納している方
- (2) 当該年度中に満70歳以上となる方

【資格】

終身会員の資格は、正会員と同等です。

【会費】

終身会員となるには、会費5年分に該当する額〔¥40,000〕を一括納入していただく必要がございます。なお終身会員の会費を納入いただいた後に退会をしても会費は返却できません。

【お申し込み方法】

- (1) 終身会員制度の利用を希望される方は、1月1日～2月末日までに事務局にメールにてその旨をご連絡ください。その際に①お名前、②生年月日、③現住所をお知らせください。
- (2) 事務局が10年間の会費納入歴を確認し、制度適用の可否をご連絡いたします。
- (3) 会費の振込用紙をご利用いただき、3月末日までに会費をお支払いください。

【その他】

終身会員になってから当初5年間は『オーストラリア研究』をご登録住所に送付させていただきます。ただし6年目以降は毎年、印刷物をお送りする際、次年度以降も印刷物の送付を希望されるかどうかを確認させていただきますので、印刷物に同封の返信用はがきにてご連絡ください。年度内最終日までにお返事がなかった場合には、「印刷物送付の希望なし」と見なして、印刷物の送付を停止させていただきます。あらかじめご承知おきください。

7. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2024年5月に年会費を納入しても、2023年度未払いの場合、それは2023年度の会費となります。すなわち、2024年度は未納ということになります。また2022、2023年度未払いの場合、2022年度分の会費納入になります。

＜会費が未納となっている会員の皆様へ＞

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2023年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着の方はアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当宛までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様には、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2023年3月発行、第36号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

8. 「マイページ」登録と内容更新のお願い

オーストラリア学会では会報の電子化を進めて参りました。2019年度まで学会直前号のみ他の配布物と併せ紙媒体で発行しておりましたが、2020年度より学会直前号を含むすべての会報を電子化しました。会報電子版は学会ウェブサイトに掲載されますが、発行のお知らせは「マイページ」に登録された電子メール宛てに送られます。アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

マイページ URL : <https://www.bunken.org/asaj/mypage/User>

9. 『オーストラリア研究』 投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

オーストラリア学会では、『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。投稿要領・投稿申込書・投稿先はウェブサイトをご参照ください (<http://www.australianstudies.jp/publish/youryou.html>)。

投稿申込書もウェブサイトからダウンロードしてください (<https://www.australianstudies.jp/publish/entry-journal.html>)。2025年3月刊行予定の第38号の投稿は2024年8月末で締め切ります。不明な点などがあれば、編集担当理事・栗田梨津子 (kurita@kanagawa-u.ac.jp) までお問い合わせください。


第12号以降、会員の研究文献目録を掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などの中から、オーストラリア学会の趣旨に関係する研究文献を選び、電子メールでお知らせください。締め切りは2024年10月30日です。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に準ずる形でお送りください。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@as.bunken.co.jp

『オーストラリア研究』ウェブサイト : <https://www.australianstudies.jp/publish/index.html>

10. 新刊書のご案内

 <p>野邊政雄 著</p> <p>メルボルンの女性のライフコース</p> <p>戦後の繁栄の時代に結婚・出産した女性</p> <p>豊かな時代の「特別な世代」、その女性たちが辿ったライフコース！</p> <p>豊か時代、多くの子どもを産み、一戸建て住宅に住む——戦後ロング・ブーム期を生きたメルボルンの女性たちは、その後の目まぐるしい社会変動を経て、どのような人生を辿ったのか。本書は、現在、高齢者となった女性たちの楽観と苦悩のライフコースを辿るとともに、彼女らの家族・社会ネットワークおよびコミュニティ形成の実態を標本調査および聞き取り調査から明らかにする。同じく戦後高度経済成長を経験した日本社会とのコントラストも顕著な、メルボルン社会と女性たちの諸相！</p> <p>写真と紹介文の出典：東信堂ウェブサイト https://www.toshindo-pub.com/book/91847/</p>	<p>野邊政雄著『メルボルンの女性のライフコース 戦後の繁栄の時代に結婚・出産した女性』東信堂、2023年11月、A5判、488頁、5900円＋税</p> <p>豊かな時代の「特別な世代」、その女性たちが辿ったライフコース！</p> <p>若くして結婚し、多くの子どもを産み、一戸建て住宅に住む——戦後ロング・ブーム期を生きたメルボルンの女性たちは、その後の目まぐるしい社会変動を経て、どのような人生を辿ったのか。本書は、現在、高齢者となった女性たちの楽観と苦悩のライフコースを辿るとともに、彼女らの家族・社会ネットワークおよびコミュニティ形成の実態を標本調査および聞き取り調査から明らかにする。同じく戦後高度経済成長を経験した日本社会とのコントラストも顕著な、メルボルン社会と女性たちの諸相！</p> <p>写真と紹介文の出典：東信堂ウェブサイト https://www.toshindo-pub.com/book/91847/</p>
---	--

【オーストラリア学会事務局】(各種届出・連絡先)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@as.bunken.co.jp

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当：安田純子 (会報/庶務担当理事)]